火おこし体験

［所要時間　約１～２時間］

…活動を行うにあたって…

火をおこす必要がなくなった現代の生活の中で、火おこし体験をすることにより、先人の生活の知恵と苦労を体験し、火の大切さを学ぶことができます。

【活動の進め方】

手順説明（センター職員）
・火おこしの説明
・安全面での諸注意

⇩

火をおこす

「火種の作製」
・火おこし器の軸にひもを巻きつけ、ヒキリ板のＶ字の溝にあてて横板を上下に振る
・しばらく続けると、黒い粉がヒキリ板のＶ字の溝にたまり小さな火種ができる

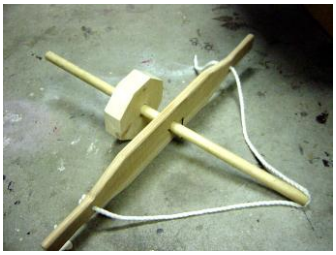
⇩

「火種を発火」

《缶を使用》
・発火缶の中に麻ひもをほぐして入れておく
・火種を発火缶の中に移す
・缶のひもを持って振り回す

《新聞紙を使用》
・火種を新聞紙の上にのせる
・口でゆっくり空気を送る

発火！！



⇩

終　了

・火の後始末
・用具の回収、返却
・終了の報告

【活動場所】

あじさい広場・たけのこ広場

【準備する物】

利用団体	軍手・麻ひも・新聞紙・ヒキリ板・先端用棒（直径 1.8 ㎝×90 ㎝）（10 人につき１本）
センター	火おこし器・発火用空き缶・切り出しナイフ

【活動上の留意点】

・缶を振り回すときは、周りに誰もいないことを確認して行ってください。
・新聞紙で発火させるときは風に注意してください。
※ヒキリ板は事前に作ってきていただく必要があります。
　作り方については次のページに記載しています。

ヒキリ板の作り方

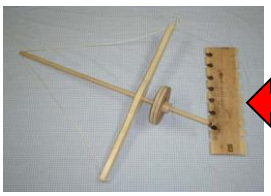
(火起こし器の土台となる板のこと)

大きさの違う板を２枚用意する。下の図は目安となる大きさです

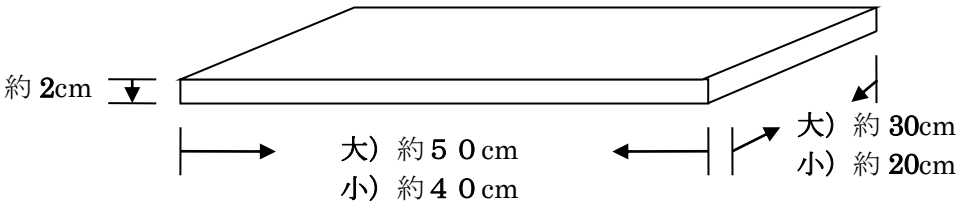
例：大）縦:約３０cm×横:約５０cm×厚さ:約２cm

小）縦:約２０cm×横:約４０cm×厚さ:約２cm の板を用意する

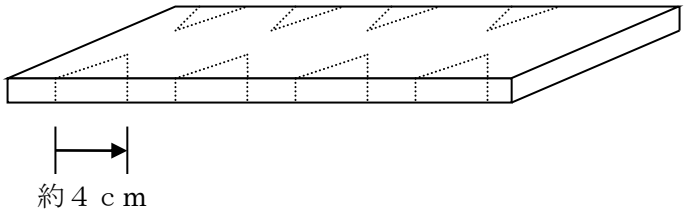
※ヒキリ板（スギ・マツ・ヒノキなどの古材を使用する）



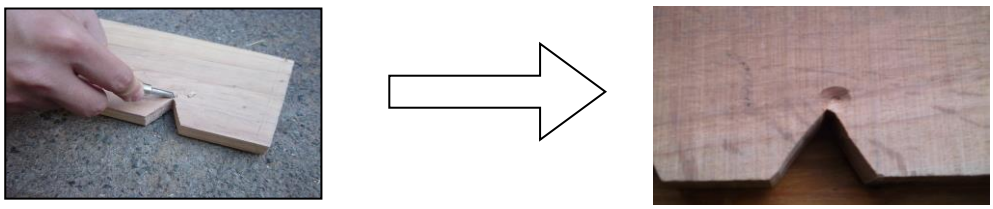
この部分を作ります。



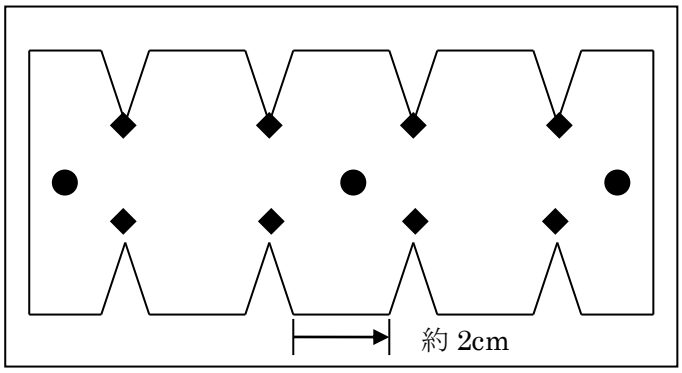
② 小さい方の板を下の図のようにのこぎりで三角に切り取る



③ 切り取った三角形の頂点の部分に彫刻刀などで切れ目を入れる



④ 加工していない板に釘で打ち付ける



● → 釘

◆ → 切れ目

※上から見た図

完成！！